

一般・消化器・小児外科

特集『機能改善外科』チーム始動!

様々な症状で悩む患者さんのQOL改善のために!



ご挨拶 新医療チーム発足にあたって

2023年度、私ども一般・消化器・小児外科は、『**超高齢社会のニーズに即した身体機能の改善**』、そして『**高血圧症や糖尿病などの慢性疾患に対する代謝機能の改善**』に特化した外科医療チームを立ち上げました。

私たちは今、人生100年時代に暮らしています。健康な体で長く生活することは誰もが望むことですが、年齢とともに体力が衰えるのは自然なことでもあります。加齢などが原因で筋力が衰えて、鼠径/腹壁癒痕ヘルニア、食道裂孔ヘルニア、直腸脱などを発症し、日常生活に支障を来しておられる方々の声を聴くことが多くあります。このような疾患に対する外科治療の進歩は目覚ましいものがあり、1cmにも満たない小さな穴から体内に到達して脆弱な部分を補強修復することで身体機能の改善を図り、生活の質の向上が期待できます。

一方で、高血圧や糖尿病などの慢性代謝性疾患は、身体だけでなく精神的にも経済的にも長期にわたる負担を強いられることが明らかとなっています。当科では、慢性代謝性疾患を伴う高度肥満の方々に対して横断的なチーム医療で包括的な支援を行ってきた実績があります。

私どもは、多様化する超高齢社会に即した外科医療を展開すべく、この度、『**機能改善外科**』チームを始動しました。これまで以上に、地域社会の人々に寄り添える、そして期待に応えられる医療を提供いたします。



一般・消化器・小児外科
科長

り そう ゆう
李 相雄

特集

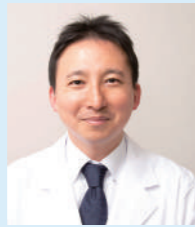
超高齢社会のニーズ、慢性疾患に対する代謝機能の改善に特化した外科医療チームを展開

鼠径/腹壁癒痕ヘルニア、食道裂孔ヘルニア、直腸脱、内痔核、痔瘻、虫垂炎、食道アカラシア、胆石発作、高度肥満、それ以外の「病名で迷う患者さん」もご紹介ください

いま いよし りょう
今井 義朗

一般・消化器・小児外科

日本外科学会認定 外科専門医、
日本消化器病学会認定 消化器病専門医、
日本消化器外科学会認定 消化器外科専門医、
日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医
専門：肥満、ヘルニア、胆石



ヘルニア

蓄積されたノウハウのもと、傷の見えない、痛みの少ない単孔式手術を患者さんに提供

この度、ヘルニア外来を開設することになりました。ヘルニアの手術は、大学病院では行わないと思われている先生方も多いと思います。しかし、近年高齢化に伴い、鼠径/腹壁癒痕ヘルニア、食道裂孔ヘルニアの患者さんは増えてきています。ヘルニアは、病状が進行することで患者さんのQOLは低下することになります。そこで、ヘルニアで悩んでいる患者さんに対して、質の高い外科手術を提供したいと考えました。これまで当科で培ってきた安心・安全の腹腔鏡下手術をヘルニアの患者さんにも提供します。また患者さんに満足していただけるよう、更なる低侵襲手術であるお臍の傷一つで手術を行う単孔式手術も行います。基礎疾患のある高齢の患者さんにも安心して手術を受けていただけるよう精一杯取り組んでいます。

肥満

減量手術とチーム医療による包括的な肥満症治療で患者さんのライフスタイルを改善

近年食生活の欧米化に伴い肥満患者は増加傾向で、BMI35kg/m²以上を高度肥満症と定義します。高度肥満症の患者さんは、糖尿病、高血圧、脂質代謝異常などの疾患を合併し、寿命も短いことが分かっています。しかし減量することで、肥満関連疾患も改善され予後も改善します。すなわち、肥満は治療すべき疾患なのです。減量は、食事療法、運動療法、内科的治療が中心なのですが、なかなか高度肥満の患者さんには、効果が不十分です。近年、本邦でも胃の大半を切除する減量手術が保険収載されました。非常に高い減量効果と代謝疾患の寛解率が報告されています。そして患者さんの健康なライフスタイルを取り戻すため、内科医、麻酔科医、精神科医、看護師、栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカーなどが連携を密にしてチーム医療を行い、包括的な肥満症治療を行います。

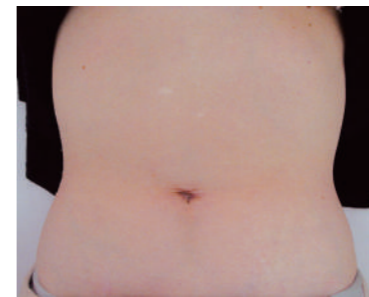
当科オリジナルの単孔式手術専用のport(ポート)を開発!



お臍に一つだけ穴を開けて行う腹腔鏡下手術です。傷はお臍に隠れるため、ほとんど見えません。体に優しく患者さんの満足度も非常に高い術式です。



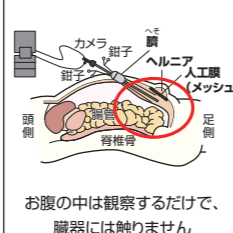
非常に使いやすく、安全な単孔式手術を提供します。



単孔式手術後のお腹です。

鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下手術『TEP法』

当院は、腹腔鏡下ヘルニア手術の中でも、「TEP法」と言われる手術を行います。これは、お腹の中には入らずに、筋膜と腹膜の間を剥離して、メッシュを敷く手術です。お腹の中に入らないため、腸管などを触らない、お臍に優しい手術です。また、このTEP法に対しても、単孔式手術を行っています。



お腹の中は観察するだけで、臓器には触りません



お腹の中より観察して確実に診断を行います。お腹の中は、見るだけです!

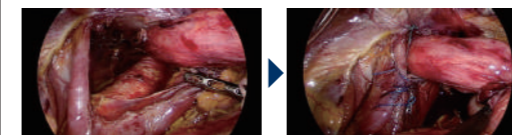


腹膜外腔を剥離してMeshを敷きます。



再度、お腹の中から観察してMeshが敷けている事を確認してから手術を終了します。

『食道裂孔ヘルニア』に対する腹腔鏡下手術

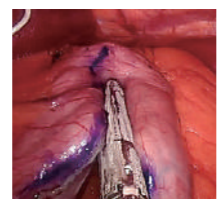


開大した食道裂孔を閉鎖します

穹隆部を巻き付けることで、逆流防止機構を作成します。



『高度肥満症』に対する腹腔鏡下スリーブ状胃切除術

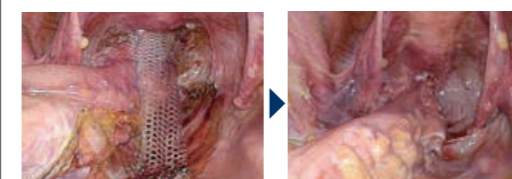


胃をスリーブ状に切除します

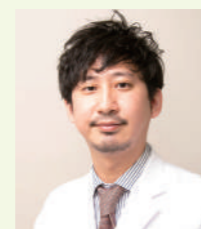
手術適応の患者さん

- 年齢 18歳~65歳
- BMI 35kg/m²以上
- 6ヶ月以上の内科的治療でも十分な効果が得られず、糖尿病、高血圧、脂質代謝異常、または睡眠時無呼吸症候群のうち1つ以上合併している

『直腸脱』に対する腹腔鏡下手術



直腸を吊り上げて、仙骨に固定します。腹腔鏡下手術のため低侵襲であり、かつ再発率も低い術式です。



すずき ゆう すけ
鈴木 悠介

一般・消化器・小児外科

日本外科学会認定 外科専門医
専門：大腸疾患

直腸脱

従来の手術で再発率の高かった直腸脱を、腹腔鏡下手術を行うことで再発率の低下・症状の改善へ!

直腸脱とは肛門から直腸が脱出してしまう病態で、肛門痛、出血、便失禁などの症状を呈することで患者さんのQOLは大きく低下します。また昨今の高齢化社会に伴い、直腸脱でお悩みの患者さんは増加しています。直腸脱の治療には手術しか方法がありませんが、従来より行われている脱出している腸管を縫い縮める方法は、再発率が非常に高いことが問題でした。しかし腹腔鏡を用いてお腹の中からずり落ちていた腸を引っ張り上げる方法は、再発率も低く、当院では第一選択に行っております。また子宮脱や膀胱瘤も同時に併発している患者さんに対しては、産婦人科医師と協力し同時に手術を行っております。高齢者の方で、手術を躊躇する方もいるかと思いますが、**症状を改善することで、健康な日常生活を取り戻してもらうため**、これまで当科で培ってきた安心・安全の腹腔鏡下手術を直腸脱でお困りの患者さんに提供いたします。

あさ くま みつ ひろ
朝隈 光弘

一般・消化器・小児外科 医長

日本外科学会認定 外科専門医、
日本消化器外科学会認定 消化器外科専門医、
日本消化器内視鏡学会認定 消化器内視鏡専門医
専門：痔



腹腔鏡下胆嚢摘出術

こだわりの手技による、整容性や術後疼痛に優れた単孔式胆嚢摘出術を患者さんに提供

当科は、2009年にお臍の傷一カ所のみで行う単孔式手術を胆嚢摘出術に導入し、現在までに1,500例を超える単孔式胆嚢摘出術を行ってまいりました。単孔式手術の症例数としましては、トップクラスと考えています。また我々は、この単孔式手術の傷の大きさに、特にこだわりを持っています。できる限り傷を小さくすることが整容性や術後疼痛に優れていると考え、お臍の中のみで手術を行っており、実際、老若男女問わず多くの患者さんに非常に満足いただいております。勿論、多数の手術を経験しているため、手技も定型化しており、重篤な合併症は経験しておりません。安全で、体に優しい単孔式胆嚢摘出術を患者さんに提供できると考えております。また胆嚢癌が疑われたり、総胆管結石を伴う際にも、消化器内科と連携して患者さんにとっての最適な治療方法を提供いたします。

〈一般・消化器・小児外科 初診外来担当表〉 2023年6月現在

月	火	水	木	金	土 (第1・3・5)
小児外科 富山 英紀	消化管 李 相雄	痔・一般 朝隈 光弘	消化管 李 相雄	肝胆・一般 米田 浩二	大腸・一般 濱元 宏喜
	機能改善 今井 義朗 鈴木 悠介		機能改善 今井 義朗 鈴木 悠介		大腸・一般 濱元 宏喜

今井・鈴木 …… 機能改善 (良性・悪性問わず)
李 …… 上部・下部 (腫瘍以外は指名のみ)
朝隈 …… 痔 (痔がん含む)
※腹腔鏡下胆嚢摘出手術は『機能改善』へ



肝疾患センター センター長 就任のご挨拶



肝疾患センター
センター長
(消化器内科 医長)
あさ い あきら
朝井 章

2023年3月より肝疾患センター長に就任させていただくことになりました。

肝疾患は、肝炎ウイルス、アルコール、脂肪肝、薬剤、代謝性、その他の数多くの原因からなり、それぞれ治療方法も異なります。また、肝疾患は患者さん自身が気づかないうちに慢性化することも多く、その結果、肝硬変、肝がんに至ることも大きな問題となっています。そのため、正確な診断や早期発見が重要となり、また的確な治療には、肝臓病診療の専門的な医療機関とかけつけ医との連携が必須です。当センターは肝疾患拠点病院として、院内外を含む医療従事者への情報提供、肝疾患に関する専門医療機関との連携、相談業務、地域住民に対する啓発を目的として活動を続けています。

今後も肝疾患撲滅のために活動を進めていきたいと考えており、診療レベルの向上を目指していく所存です。当センターの活動が皆さまのお役に立ち、肝疾患を克服するための一助となることを切に願っております。

肝疾患センター ホームページ



TOPICS

上部消化器内視鏡オープン検査を始めました

充実した設備の内視鏡センターで安心して受けていただけます

最新の内視鏡機器で診断します

結果は速やかにご報告します

専用の「申込書 兼 診療情報提供書」をご準備しております。
ご希望の方は医療連携室までお問い合わせください。

医療連携室からの
お知らせ

2023年度の通常診療日・休診日のお知らせ

【通常診療日】

- 2023年 9月18日 (月・敬老の日)
- 2024年 1月 8日 (月・成人の日)

※シャトルバス (JR高槻駅⇄大阪医薬大病院) 通常通り運行

【休診日】

- 2023年 7月29日 (土)
- 2023年 9月30日 (土) (当院の都合により休診)
- 2024年 3月30日 (土)

医療連携室ご利用のご案内

● 医療連携室「FAX紹介申込書」受付時間

平日 / 8:30~20:00 土曜日 / 8:30~12:00

※第2・第4土曜日は休診です。

※FAX受信は24時間可能 (休診時も含む)。

但し受付時間以外の受信については翌診療日以降の対応となります。

大阪医科薬科大学病院 広域医療連携センター 医療連携室

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2-7

- TEL.072-683-1221 (大代表) 内線2308
- TEL.072-684-6338 (医療連携室直通)

FAX

送信先 FAX 072-684-6339

本院専用のFAX紹介申込書及び封筒をご用意しております。
ご利用の場合は、電話またはFAXにてご請求ください

編集後記

あらゆるものが制限されてきたコロナ禍の生活も、この5類への移行により以前の姿を取り戻しつつあります。心なしか街中も明るくにぎやかに感じます。このままマスクなしで笑いあえる日が一日でもはやく来ることを切に願います。

私たち医療連携室でも、この3年間中止となっていた「連携強化のつどい」の実施を予定しております。

久しぶりに皆様と直接お会いすることができるのをスタッフ一同楽しみにしております。(M.W.)

